

マルチクライアント方式

調査企画書

*2022年版 [トナーマーケット総覧] *

『ハイブリッドワーク
時代に於ける
トナー市場の総合分析』

=トナー、レジン、その他材料の最新トレンド=

2022年5月



日・中・米・欧の市場調査
株式会社 データ・サプライ

〈調査概要〉

I. 調査テーマ

*2022年版 [トナーマーケット総覧] *

『ハイブリッドワーク時代に於けるトナー市場の総合分析』

= トナー、レジン、その他材料の最新トレンド =

II. 調査主旨

半導体不足などを背景に自動車、スマートフォンなどあらゆる産業において生産が停滞し、世界のサプライチェーン（供給網）に混乱が生じている。事務機業界においても同様の混乱が昨年より続いており、MFPやレーザープリンタの2022年における本体生産台数については計画割れの公算が強くなってきた。

トナー市場の回復具合はどうか。主要各社のトナー生産量は2021年以降、回復基調が続いているが、これはサプライチェーンの混乱長期化を背景に消費地での在庫積み増しの動きが顕在化しているのではないかとの見方が強い。実際、プリントボリュームに直結するオフィス出勤率は、米国では依然として従来比50%未満の水準にとどまっている（米国Kastle Systemsが入退管理システムの入館記録をもとに公表）ほか、オフィス回帰が進みつつある日本や欧州でも従来水準には戻っていない。

ポストコロナの焦点の一つは、働き方や働く場所の変化であるとされている。コロナ禍により急速に普及した在宅勤務は、多様な人材の確保や事務所スペースの削減、通勤・移動が減ることでコスト削減になるなどのメリットがある一方、勤怠管理の困難性や創造性・組織力の低下などのデメリットも明らかになってきており、将来的にはオフィスと在宅勤務を組み合わせたハイブリッドワークが主流になっていくとみられている。トナーの需要は、このオフィスと在宅の勤務割合がどのような比率になるかにかかってくる。

ビジネス界全体においても、デジタルトランスフォーメーション（DX）への取り組みが加速する。DXはIT技術等を使ったサービスや仕組みを浸透させて、ヒトやモノ、企業をより便利にしていくための変化や改革と定義されるが、DXの第一歩として「ペーパーレス化」に取り組む企業は増えていくとみられる。

市場の成熟スピードが加速する中で、先行きの不透明感は増しており、トナー市場の全需がコロナ前の状態に戻ることはないという見方が支配的となっている。トナーメーカーにおいては、需要が戻らない中で、環境規制への対応にも追われている。環境規制については、酸化チタンに続き、HMDS処理シリカの規制が議論されている。さらに世界的なSDGs（持続可能な開発目標）の潮流のなかでリサイクル原料をベースとするトナーの研究開発への取り組みも始まっている。

弊社では、30年以上の長期にわたり「トナー業界」の最新状況を伝えてきました。今回のレポートでも、トナー、レジン、キャリア、磁性粉、CCA、色材、外添剤、ワックスなど関連事業の将来性について、一般的な見方にとらわれることなく、専門的・客観的見地から調査・分析を進めていきます。今回のレポートが業界再発展の一助になることを望みます。

Ⅲ. 調査対象品目

1. 調査対象品目

1) トナー

(1) 粉碎トナー (カラー、モノクロ) (2) ケミカルトナー (カラー、モノクロ)

2) トナー用レジン

(1) ポリエステル系レジン (2) スチレン-アクリル系レジン (3) その他

3) キャリア 4) 磁性粉 5) 荷電制御剤 (CCA) 6) カラートナー用色材

7) 外添剤 8) カーボンブラック 9) トナー用WAX 10) その他関連品目

2. 調査対象先

1) 主要メーカー

トナーメーカー [73社] / トナー用レジンメーカー [19社] /

キャリアメーカー [4社] / 磁性粉メーカー [3社] / CCAメーカー [7社]

/ 色材メーカー [9社] / 外添剤メーカー [14社] / カーボンブラックメーカー

[3社] / WAXメーカー [7社]

2) その他関連メーカー

Ⅳ. 調査範囲及び調査方法

1. 調査範囲

調査対象範囲は2020年～2026年とする。

2. 調査方法

(1) 取材対象メーカー及び関連メーカーへの直接訪問面接調査。

(2) 公開されている文献、資料、統計等の分析及び調査。

(3) 弊社に蓄積されているデータの活用。

Ⅴ. 調査形態、調査期間、他

1. 調査形態

本調査はマルチクライアント方式による調査である。

2. 調査期間

2022年5月～6月中旬

3. 調査報告書 (A4判簡易製本) 刊行予定日

2022年6月24日 (2021年版は572頁)

4. 申込方法

最終頁の申込書に必要事項を明記の上、担当宛にお送り下さい。

5. 1社あたりの参加費用

¥600,000- (消費税別) : 英文版\$6,000-

刊行前のお申込は、10%割引きの¥540,000 (消費税別) でご提供いたします。

その際は原則として申込時に半金、報告書納入時に残金のご請求をさせていただきます。

刊行後のお申込みは上記定価の¥600,000をご請求させていただきます。

6. 調査担当 山本 幸男、吉田 晃介、針生 正史

TEL:03-3831-9201、FAX:03-3831-9204

e-mail:yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp

VI. 調査項目

A. 集計分析編

1. 全世界でのトナー生産動向

- 1) 日本／海外メーカー別全体生産量推移（2020年～2026年）
- 2) 用途別成分別生産量全体推移（2020年～2026年）
- 3) オフィス向け／プロ向けのトナー生産量内訳（2021年）
- 4) 製造方法別種別生産量推移（2020年～2026年）
- 5) OEMとサードパーティ向けのトナー生産量（2020年～2022年）
- 6) メーカーシェアの推移（2020年～2022年）
- 7) 生産地域別全体生産量推移（2020年～2026年）
- 8) 成分別メーカー別全体生産動向（2020年～2026年）
- 9) 色別メーカー別全体生産動向（2020年～2026年）
- 10) 機器別メーカー別全体生産動向（2020年～2026年）
- 11) ケミカルトナーのメーカー別生産動向（2020年～2026年）
- 12) 欧州における環境規制（酸化チタン、シリカ等）への対応について
- 13) 付加価値トナーの用途と販売量

2. 地域別生産動向の現状と変化

北米／欧州／アジア（中国、韓国、台湾、インド、マレーシア、他）・日本

3. ハードメーカーとトナーメーカーの主要供給関係の現状と変化

- 1) モノクロMFP（複写機・複合機）
- 2) カラーMFP（複写機・複合機）
- 3) モノクロプリンタ・MFP
- 4) カラープリンタ・MFP
- 5) モノクロPP
- 6) カラーPP

4. 関連材料市場動向

4-1. レジン市場の変遷

粉砕トナー・ケミカルトナー用レジンの生産量・生産金額の推移

4-2. キャリア市場の変遷

キャリアの生産量・生産金額の推移／2成分トナーのモノクロ・カラートナーの生産量推移

4-3. 磁性粉市場の変遷

磁性粉の生産量・生産金額／磁性1成分の生産量推移

4-4. 荷電制御剤（CCA）市場の変遷

生産量・生産金額の推移／今後の方向性

4-5. 色材市場の変遷

生産量・生産金額の推移／フルカラートナーの生産量推移

4-6. 外添剤市場の変遷

生産量・生産金額の推移／今後の方向性

4-7. カーボンブラック市場の変遷

生産量・生産金額の推移／今後の方向性

4-8. ワックス市場の変遷

生産量・生産金額の推移／今後の方向性

B. トナー市場編

B-1. 日本メーカー

1. 生産動向

- 1) 用途別成分別生産量推移（2020年～2026年）
- 2) 製造方法別種別生産量推移（2020年～2026年）
- 3) トナー全体の生産量と生産金額（2021年）
- 4) メーカー別生産量全体推移（2020年～2026年）
- 5) モノクロ／フルカラートナーのメーカー別生産量推移（2020年～2026年）
- 6) トナー製法別のメーカー別生産量推移（2020年～2026年）
 - (1) 粉砕トナー（モノクロ／カラー）
 - (2) ケミカルトナー（モノクロ／カラー）
- 7) トナー成分別のメーカー別生産量推移（2020年～2026年）
 - (1) 磁性1成分（モノクロトナー）
 - (2) 2成分（モノクロトナー＋カラートナー）
 - (3) 非磁性1成分（モノクロトナー＋カラートナー）
- 8) メーカー別レジンの種別トナー生産量動向（2021年）

9) ハードメーカーへのトナーメーカーの納入量変化及びハードメーカーの内製率
(2021年実績)

2. 国内外生産拠点概要

工場名/住所/電話番号

3. メーカーの個別動向 (2020年～2026年)

《各メーカーに共通》

用途別・成分別生産量推移 (国内生産分/海外生産分) /工場別トナー種別生産量内訳/地域別海外生産の内訳/製造方法別種別生産量/トナーの生産量と生産金額/トナーの技術開発動向/生産設備とコスト/新興国向けと先進国向けの開発/ケミカルトナー (生産量とコスト) /粉砕トナー (生産量とコスト) /超小粒径トナー/低温定着、省電力等/成分別・種別生産量と種別レジン購入量/色別粒径別生産量/オフィス向け/プロ向けの生産量・生産金額内訳/ポストコロナに向けた事業戦略 (環境規制対応、生産、コスト、提携など) /付加価値トナー (金・銀・白・クリア・蛍光) の開発と用途別生産量/主要ユーザー別納入量の変化 (2018年～2020年) /OEMとサードパーティ向け生産量の変動/サードパーティ対策/生産拠点動向/設備投資及び研究開発費の動向/会社概要

- 1) キヤノン 2) リコー 3) 富士フイルムビジネスイノベーション 4) コニカミノルタ
5) 京セラドキュメントソリューションズ 6) シャープ 7) 東芝テック 8) 巴川製紙所
9) 三菱ケミカル 10) 花王 11) FDK 12) サカタインクス 13) アイメックス
14) 日本ゼオン 15) 三笠産業 16) その他メーカー(5社)

B-2. 海外メーカー

1. 生産動向

- 1) 用途別成分別生産量推移 2) メーカー別生産量全体推移 3) モノクロ/フルカラートナーのメーカー別成分別生産量推移 4) オフィス向け/プロ向け生産量の内訳 5) OEM量とサードパーティ量 6) 各社の特徴

2. 海外メーカーの個別動向

用途別成分別色別生産量推移/トナーの最新動向/ケミカルトナーの生産量

地域	国名	トナーメーカー
北米	アメリカ	Hunt Imaging、Kodak(Nexpress Solutions)、Lexmark International、Raven Industries、Troy Group、Xerox Corporation
	欧州	Xerox Europe
欧州	ドイツ	Integral
	ロシア	Ros Toner
	ベルギー	Xeikon
	トルコ	IPM(Imaging Products Manufacturing)
アジア	韓国	Cosmo AM&T(Saehan Media)、Lotte Fine Chemical、Union Chemical
	台湾	Royal Precision Technology、Trend Tone Imaging

中 国	Cangzhou ASC Toner Production、Cangzhou HuiBao Toner Production、CET Group、Excellent Color Technology(HuBei)、Fujian Meihong Technology、Ganghou Ninealley Technology、Guangzhou Auking Digital Technology Enterprise、Guangzhou Aumes Digital Technology、Guangzhou Cetron Office Equipment、Guangzhou Shuangyi Sci-technology、Guangzhou VIVID Print Material、Guizhou Brothers Union Technology、Handan Hanguang OA Toner、Hubei Dinglong、Hubei East Toner New Materials、Hubei Sincore Toner Digital Technology、Hubei Yilong、Huion Toner Industrial、HYB Toner、ICMI China、Meishan JSY Technology Material、Nanjing Teshine Imaging Technologies(Wuxi Tianxing Office Consumable Materials)、Real Color Corporation、Tianjin Synthetic Material Research Institute(Guangzhou Comet Chemical)、Tianjin Zhonghuan TCOA Electronics、Wuhan Pointrole Information Technology、Wuhan Zongxiang Imaging、Wuxi Jiateng Magnetic Powder、Wuxi Meiling Digital Science and Technology、Xin Printing、Yvian Technology (Zhuhai)、Zhongshan Rainmiu Office Technology、Zhuhai Guocai Technology
マレーシア	Jadi Imaging Technologies
インド	Indian Toners and Developers、Pure Toners&Developers
イラン	Naghsh Ayandegan Abyaneh

3. 海外メーカーの生産拠点一覧

- 1) 北米南米地域 2) 欧州地域 3) アジア地域

C. レジン市場編

1. 全世界でのレジン生産動向

- 1) 日本／海外メーカー別生産量推移（2020年～2026年） 2) 今後の動向

2. 日本メーカーの生産動向

- 1) 地域別種類別生産量／生産金額推移（2020年～2026年）
 2) メーカー別生産量動向（2020年～2026年）
 (1) 全体 (2) スチレン-アクリル系
 (3) ポリエステル系（粉砕トナー用、ケミカルトナー用） (4) 結晶性ポリエステル
 (5) その他
 3) 種類別地域別生産量動向（2020年～2026年）
 (1) スチレン-アクリル系 (2) ポリエステル系 (3) その他
 4) トナーメーカーへのレジンメーカーの供給量一覧（2021年実績）
 ※国内外別供給量の実態
 (1) スチレン-アクリル系 (2) ポリエステル系 (3) その他
 5) ケミカルメーカーへの対応
 6) 低温定着トナーへの対応
 7) レジンメーカーの生産拠点概要
 (1) 国内生産拠点一覧 (2) 海外生産拠点概要
 8) 設備投資及び研究開発費の動向

3. メーカーの個別動向

《各メーカーに共通》

地域別種類別生産量・生産金額推移／トナーメーカーへのレジン種類別国内外別納入量／OEM量とサードパーティ量／ケミカルトナーへの対応／生産拠点（国内・海外）／開発動向／設備投資及び研究開発費の動向／会社概要

- 1) 三洋化成工業 2) 藤倉化成 3) 三井化学 4) 三菱ケミカル 5) DIC 6) 花王 7) 星光
 PMC 8) その他メーカー（12社／日本1社・韓国2社・中国8社／インド1社）

D. 関連材料市場編

1. キャリア市場

- 1) メーカー別生産量、生産金額（2020年～2026年）
 ①日・米・欧の地域別生産動向 ②生産拠点 ③シェア
 2) 種類別メーカー別生産量推移（2020年～2026年）
 (1) 鉄粉キャリア (2) フェライトキャリア (3) マグネタイトキャリア
 (4) 樹脂キャリア
 3) 用途別種類別生産量、生産金額推移（2020年～2026年）
 4) 種類別粒径別生産量推移（2020年～2026年）
 (1) 50 μ m未満 (2) 50～80 μ m (3) 80～100 μ m (4) 100 μ m以上
 5) コーティング材料別及びノンコーティング別生産量推移（2020年～2026年）
 6) キャリアメーカー別材料別主要納入状況一覧（2021年実績）
 7) 市場及び技術動向
 8) メーカー別生産拠点一覧
 9) 個別メーカー動向

《各メーカーに共通》

用途別種類別生産量・生産金額／種類別粒径別生産量／コーティング材料別生産量／環境対応・小粒径化／OEM量とサードパーティ量／環境対応型キャリア／種類別キャリアの主要納入先／生産拠点／設備投資及び研究開発費の動向／会社概要

- (1) パウダーテック (2) 関東電化工業 (3) DOWA エレクトロニクス (4) 戸田工業

2. 磁性粉市場

- 1) メーカー別生産量推移（2020年～2026年）
生産動向とシェア
- 2) メーカー別納入金額推移（2020年～2026年）
- 3) メーカー別主要納入状況（2021年実績）
- 4) メーカー別生産拠点一覧
- 5) 個別メーカー動向（2020年～2026年）

— 《各メーカーに共通》 —

生産量／納入金額／OEM量とサードパーティ量／納入先／生産拠点／設備投資及び研究開発費の動向／会社概要

- (1) 戸田工業 (2) 関東電化工業 (3) 三井金属鉱業(2020年で生産終了)

3. 荷電制御剤（CCA）市場

- 1) 種類別メーカー別生産量、生産金額推移（2020年～2026年）
①正帯電（ニグロシン系、無色系／白色系、樹脂系）・負帯電（有色系、無色系／白色系、樹脂系）別生産動向 ②生産拠点 ③シェア
- 2) 最新技術動向
(1) カラー対応 (2) 環境対応
- 3) 価格動向
- 4) 荷電制御剤メーカーの主要納入先一覧（2021年実績）
- 5) メーカー生産拠点一覧
- 6) 個別メーカー動向（2020年～2026年）

— 《各メーカーに共通》 —

種類別生産量・生産金額／カラー対応／価格／OEM量とサードパーティ量／主要納入先／生産拠点／設備投資及び研究開発費の動向／会社概要

- (1) オリエン特化学工業 (2) 保土谷化学工業 (3) クラリアント
(4) 藤倉化成（CCR=荷電制御レジン） (5) 日本カーリット (6) 中央合成化学
(7) Hubei Dinglong

4. カラートナー用色材（Y.M.C）市場

- 1) 色別生産量、生産金額推移（2020年～2026年）
①国内外の生産動向 ②生産拠点 ③シェア
- 2) 色材の最新動向と価格動向
- 3) 添加量
- 4) メーカー別種類別生産動向推移（2020年～2026年）
- 5) 粉砕トナーとケミカルトナー向け納入量
- 6) メーカー別納入先一覧（2021年実績）
- 7) 個別メーカー動向

— 《各メーカーに共通》 —

色別生産量・生産金額／主要製品と価格／OEM量とサードパーティ量／主要納入先／生産拠点／設備投資及び研究開発費の動向／会社概要

- (1) 大日精化工業 (2) DIC (3) クラリアント (4) トーヨーカラー
(5) 山陽色素 (6) その他（BASF／富士色素／東京色材工業／大同化成工業）

5. 外添剤（シリカ、酸化チタン、有機微粒子、他）市場

- 1) 種類別生産量、生産金額推移（2020年～2026年）
- 2) トナーの種類別外添剤の動向

- 3) メーカー別特性
- 4) 主要製品と価格
- 5) メーカー別種別生産動向推移 (2020年～2026年)
- 5) メーカー別納入先一覧
- 6) 新規メーカー動向
- 7) 主要メーカー動向

《各メーカーに共通》

種別生産量・生産金額/OEM量とサードパーティ量/欧州環境規制への対応/添加量/使用目的/納入先/生産拠点/設備投資及び研究開発費の動向/会社概要

- (1) エボニック (2) キャボット (3) ワッカー (4) チタン工業
- (5) テイカ (6) トクヤマ (7) 信越化学工業 (8) その他 (7社/日本6社/韓国1社)

6. カーボンブラック市場

- 1) 生産量、生産金額推移 (2019年～2025年)
 - ①粉砕・ケミカルトナー別生産動向
 - ②生産拠点
 - ③シェア
- 2) 製品特性
- 3) 添加量
- 4) メーカー動向
 - (1) 三菱ケミカル (2) キャボット (3) オリオン
- 5) 開発動向と設備投資及び研究開発費

7. トナー用WAX市場

- 1) 生産量、生産金額推移 (2020年～2026年)
 - ①生産動向
 - ②生産拠点
- 2) WAXの種類
ポリプロピレン/ポリエチレン/パラフィン/エステル/カルナバ
- 3) 種別融点
- 4) 種別価格
- 5) ケミカルトナーへの対応
- 6) 設備投資及び研究開発費の動向
- 7) メーカー動向
 - (1) 三洋化成工業 (2) 三井化学 (3) 日本精蠟 (4) NuCera (トーヨーケム)
 - (5) クラリアント (6) 日油 (7) 他

E. 電子写真ハードのトナー成分別機種一覧 (2018年～)

1. PPC (MFP) のトナー成分別主要機種一覧
2. レーザー/LEDプリンタのトナー成分別主要機種一覧
3. プロダクションプリンタのトナー成分別主要機種一覧
4. レーザー/LED FAXのトナー成分別主要機種一覧

< サンプルページ 1 >

※実際のレポートには、数字やコメントがあります。

< 分析編 >

7) 製造方法別種類別生産量推移 (2019年～2025年) 単位：トン

年	2019年		2020年		2021年(見込)		2022年(予測)		2023年(予測)		2024年(予測)		2025年(予測)	
		%		%		%		%		%		%		%
粉砕トナー	2成分	モノクロ												
		カラー												
		計												
	非磁性1成分	モノクロ												
		カラー												
		計												
	磁性1成分	モノクロ												
		カラー												
	合計	モノクロ												
		カラー												
	対前年比(%)													

ケミカルトナー	2成分	モノクロ											
		カラー											
		計											
	非磁性1成分	モノクロ											
		カラー											
		計											
	磁性1成分	モノクロ											
		カラー											
	合計	モノクロ											
		カラー											
	対前年比(%)												

合計	2成分	モノクロ											
		カラー											
		計											
	非磁性1成分	モノクロ											
		カラー											
		計											
	磁性1成分	モノクロ											
		カラー											
	合計	モノクロ											
		カラー											
	対前年比(%)												

2020年

< 分析編 >

A. 分析編

1. 全世界でのトナー生産動向

1) 日本/海外メーカー別全体生産量推移 (2019年～2025年)

	2019年		2020年		2021年(見込)		2022年(予測)		2023年(予測)		2024年(予測)		2025年(予測)	
		%		%		%		%		%		%		%
海外メーカー生産量														
対前年比														
日本メーカー生産量														
対前年比														
合計														
対前年比														

	2019年		2020年		2021年(見込)		2022年(予測)		2023年(予測)		2024年(予測)		2025年(予測)	
		%		%		%		%		%		%		%
海外メーカー金額														
対前年比														
日本メーカー金額														
対前年比														
合計														
対前年比														

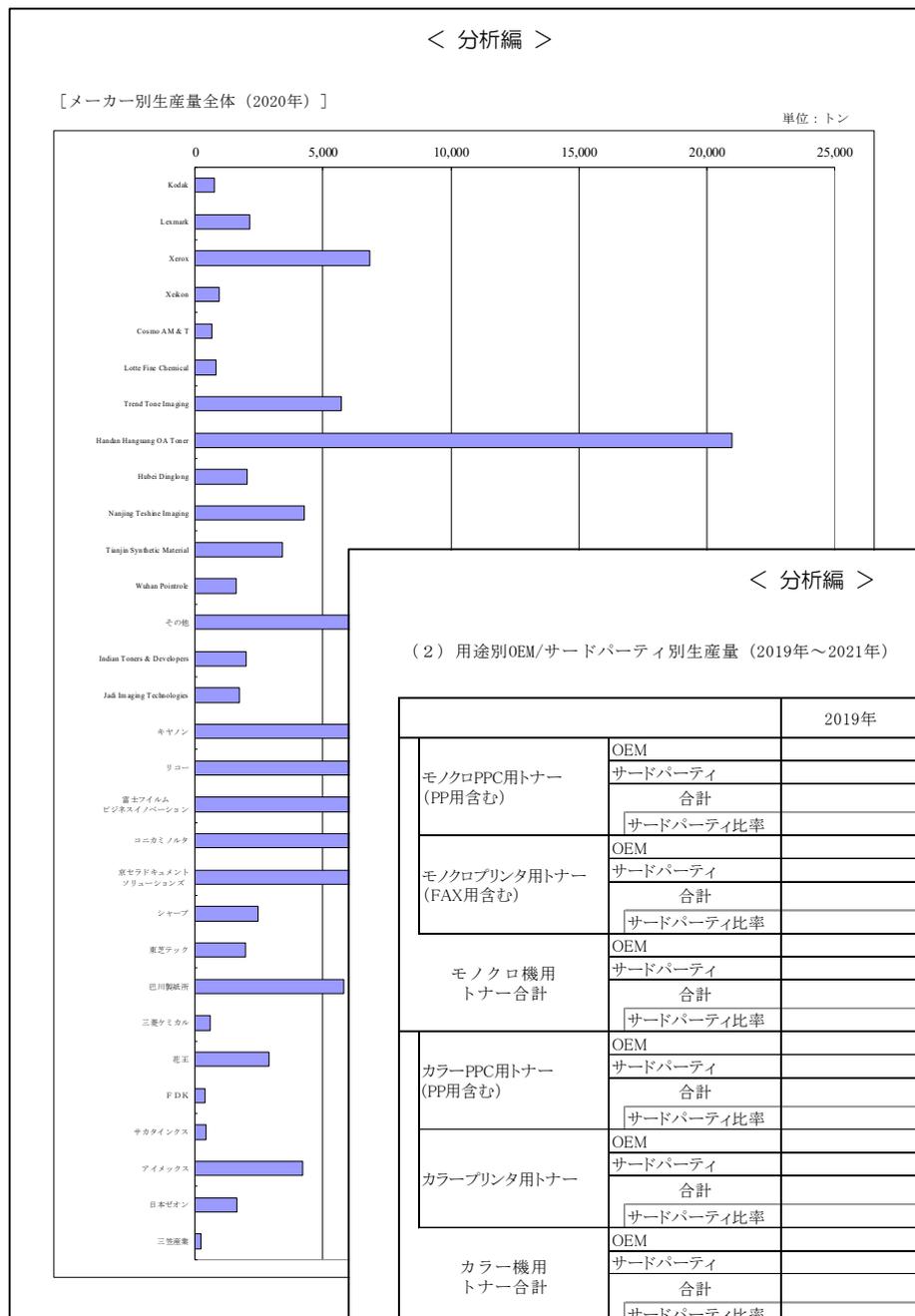
2020年における全世界のトナー市場は、生産量ベースで対前年比81.3%の145,553トン、生産金額ベースで同82.2%の1,420億1千万円。同年は新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により、1～3月は中国メーカーの多くが稼働停止に追い込まれ、4月以降は欧米の主要都市がロックダウン(都市封鎖)の措置を取ったことで、日本メーカーや米国メーカーも軒並み生産調整が実施される事態となった。10月以降は市場全体が回復に向かったが、年トータルではこれまでにない大幅な減少となった。

2021年前半のトナー生産量は全般的に回復基調で推移している。ただ、欧米オフィスのプリントボリュームが未だ本格回復の途上にあることを考慮すると、年トータルの生産量では2019年レベルに遠く及ばない(2019年比91.1%)との見通しである。そして、コロナ終息が期待される2022年以降も先進国企業の多くはオフィスワークとテレワークというハイブリッドな働き方を一定程度維持するとみられており、プロフェッショナルプリント市場で多少の上積みがあったとしても、トナー需要はそのまま現状維持から微減していく可能性が高くなった。

このように市場が縮小に向かう中、トナーメーカー各社が厳格化される環境規制に対応しつつ、生産拠点の安定稼働を維持していくことは極めて困難な課題となりつつある。今後は競合他社へのトナー外販という選択肢が現実味を帯びてくるほか、相当のトナー需要があるとみられる中古機市場での対応強化など、前例や慣習にとらわれない戦略立案がトナー市場での生き残りの鍵となる。

< サンプルページ 2 >

※実際のレポートには、数字やコメントがあります。



< 分析編 >

(2) 用途別OEM/サードパーティ別生産量 (2019年~2021年)

単位: トン

		2019年	2020年	2021年(見込)
モノクロPPC用トナー (PP用含む)	OEM			
	サードパーティ			
	合計			
	サードパーティ比率			
モノクロプリンタ用トナー (FAX用含む)	OEM			
	サードパーティ			
	合計			
	サードパーティ比率			
モノクロ機用トナー合計	OEM			
	サードパーティ			
	合計			
	サードパーティ比率			
カラーPPC用トナー (PP用含む)	OEM			
	サードパーティ			
	合計			
	サードパーティ比率			
カラープリンタ用トナー	OEM			
	サードパーティ			
	合計			
	サードパーティ比率			
カラー機用トナー合計	OEM			
	サードパーティ			
	合計			
	サードパーティ比率			
合計	OEM			
	サードパーティ			
	合計			
	サードパーティ比率			

※本頁のカラー機用トナーは、Y・M・Cトナーのほか、カラー機用BKトナーも含む。P2などのカラートナーはY・M・Cトナーのみ。

2020年の用途別サードパーティ比率は、モノクロ機用トナーが57.4% (モノクロPPC用: 42.2%、モノクロプリンタ用: 64.2%)、カラー機用トナーが13.2% (カラーPPC用: 5.5%、カラープリンタ用: 32.8%) となった。

モノクロ機市場は、中国、東南アジア、東欧、ロシア、中東、アフリカ、南米などが主な需要地域となっている。これらの地域では、格安のサードパーティ製品(いわゆるコンパチ品)が広く流通しているため、モノクロ機のサードパーティ比率は極めて高くなっている。

これに対して、カラー機は日本、北米、西欧など先進国市場向けが大半を占める。先進国地域でも再生業者などのサードパーティ製品が流通しているが、そのサードパーティ比率はまだ低い。特にカラーPPC及びカラーPPのサードパーティ比率は現状5.5%程度に過ぎないが、今後は中国などで中古カラー機などが拡販されていく可能性も高く、中長期的には伸びしろのある市場とみられている。

< サンプルページ 3 >

※実際のレポートには、数字やコメントがあります。

< レジン市場編 >

3. トナーメーカーへのレジン納入量一覧 (2020年)

1) 全体

(トン/年)

トナーメーカー	レジンメーカー	三洋化成 工業	藤倉化成	三洋化学	イブ・ダリ マキ (株)	三菱 ケミカル	デジテック ケミカル	DIC	花王	Kao (株・K・G)	星光 PMC	合計	不明分	納入量 (合計)		
東	キヤノン															
	リコー															
	富士フイルム ビジネスソリューション															
	コニカミノルタ															
	京セラドキュメント ソリューションズ															
	シャープ															
	東芝アック															
	内	巴川製紙所														
		三菱ケミカル														
	南	花王														
FDK																
ナカインクス																
アイメックス																
三菱産業																
その他																
海外向け供給量合計																

< トナー市場編 >

[3] Hubei Dinglong (中国)

1) 用途別・成分別生産量推移

単位: トン

用途・成分	2019年	2020年	2021年(見込)	2022年(予測)	2023年(予測)	2024年(予測)	2025年(予測)
	%	%	%	%	%	%	%
PP	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
PPC	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
モノクロ	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
小計	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
PP	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
PPC	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
カラー	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
小計	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
合計	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					
小計	2成分						
	非磁性1成分						
	磁性1成分						
	小計						
		対前年比(%)					

＜サンプルページ 4＞

※実際のレポートには、数字やコメントがあります。

＜ 外添剤市場編 ＞

9) 外添剤の供給関係

	シリカ					酸化チタン	
	エボニック	キャボット	信越化学工業	トクヤマ	ワッカー	チタン工業	テイカ
キャノン							
リコー							
富士フイルム ビジネスイノベーション							
コニカミノルタ							
京セラドキュメント ソリューションズ							
シャープ							
東芝テック							
巴川製紙所							
三菱ケミカル							

＜ 色材市場編 ＞

(3) 色材メーカーの供給関係

△…少量

	大日精化工業	クラリアント	山陽色素	トーヨーカラー	D I C	B A S F	富士色素	東京色材工業	大同化成
キャノン									
リコー									
富士フイルム ビジネスイノベーション									
コニカミノルタ									
京セラドキュメント ソリューションズ									
シャープ									
東芝テック									
巴川製紙所									
三菱ケミカル									
花王									
F D K									
日本ゼオン									
サカタインクス									
アイメックス									
コダック									
(米)ゼロックス									
ロッテ精密化学 (元サムスン精密)									
その他									

①エボニックの日本メーカーへの販売
 ②エボニックに次いで納入先が多いの
 ③ワッカーの日本メーカーへの販売は
 ④酸化チタンの富士フイルムBI向けは

(3)-1. 全体

①大日精化工業は、イエロー、マゼンタ、シアン3色を大部分のメーカーに納入している。OEM向けのトップメーカーである。
 2020年は全てのメーカーが減少したが、富士フイルムビジネスイノベーションは減少幅が少なかった。

②クラリアントのマゼンタの主力は「122」、イエローは「180」と「74」。
 2020年は各社減少したが、2021年に入りアイメックスとサカタインクス向けの注文は急回復している。

③山陽色素の納入先は2020年で全てで減少。但し、巴川製紙所とサカタインクス向けは、2021年4月から急回復。
 シアンのみの納入先はキャノン(粉砕)のみ。マゼンタのみは、リコー、三菱ケミカル、日本ゼオン、ロッテ精密化学で、ケミカルトナー向け中心。イエローのみは、コニカミノルタ、アイメックスの2社。また、京セラDS、シャープ、巴川製紙所、サカタインクス、台湾メーカー(TTI)へは3色納入。

④トーヨーカラーのコニカミノルタ向けは、シアンのみ。リコー向けはイエローとマゼンタ。

⑤DICの納入先は7社。尚、BASFの顔料事業の買収は、2021年6月末に完了予定。

⑥東京色材工業はマゼンタのみ。

⑦大同化成はマゼンタのみ。

(3)-2. 納入形態

納入形態は(生)顔料(粉末)と化工品(ケミカルトナー向けの水系加工顔料と粉砕トナー向けの非水系加工顔料)の2つがある。リコーとキャノンは(社内加工が出来ないので)化工品として購入しているが、富士フイルムビジネスイノベーションとコニカミノルタは、(生)顔料のみを購入。

* トナーの過去の刊行リスト *

1. 1986年 8月 「'86 トナー及び関連機器市場の総合分析と技術動向」
2. 1989年 1月 「'89 拡大するトナー及び応用機器市場の将来性分析」
3. 1991年 4月 「'91 トナーと関連材料及び応用機器市場の総合分析」
4. 1992年 9月 「'92 ファイン化が進むトナーの用途別将来展望」
5. 1993年 8月 「'93 世界初の重合トナー上市で活性化するトナー業界の展望」
6. 1994年 10月 「多様化するトナーの成分別市場と将来性分析」
7. 1995年 11月 「高画質化する電子写真のトナー市場と需要動向分析」
8. 1996年 11月 「重合フルカラートナーで揺れるトナー及び関連業界の最新動向」
9. 1997年 9月 「電子写真の高画質化・カラー化を担うトナー及び関連業界の将来展望」
10. 1998年 12月 「重合フルカラートナーが牽引する電子写真の高画質化とトナー業界の将来動向」
11. 1999年 12月 「分岐点にさしかかったトナー業界の現状と将来動向」
12. 2001年 1月 「重合トナーで変容するトナー業界の将来展望」
13. 2002年 4月 「重合トナーが加速するトナー市場の構造変化」
14. 2003年 5月 「重合トナーの増産が続くトナー業界の変化と将来動向」
15. 2004年 5月 「ケミカルトナーがもたらすトナー業界の最新動向」
16. 2005年 8月 「ケミカルトナーの活発化で変化するトナー及び関連材料市場の将来動向」
17. 2006年 8月 「大手メーカーの撤退で揺れ動くトナー及び関連業界の将来性」
18. 2007年 8月 「高速及びPOD分野を切り開くトナーと関連材料市場の将来展望」
19. 2008年 8月 「新ケミカルトナーの登場で変容するトナー関連市場の構造分析」
20. 2009年 8月 「大手ケミカルトナーメーカーの登場で揺れるトナー関連市場の分析」
21. 2010年 8月 「専業メーカーの撤退が続くトナー関連市場の総合分析」
22. 2011年 8月 「震災被害を乗り越えたトナー業界の長期展望」
23. 2012年 8月 「低成長市場にいどむトナー業界の戦略」
24. 2013年 8月 「新興国市場拡大に期待するトナー業界のゆくえ」
25. 2014年 8月 「超小粒径トナーが切り拓くトナー業界の展望」
26. 2015年 8月 「付加価値トナーで市場に刺激を与えるトナー業界」
27. 2016年 8月 「高耐刷高画質を求め続けるトナー業界の展望」
28. 2017年 8月 「コスト競争力が市場を立て直すトナー業界の未来図」
29. 2018年 8月 「環境問題に直面し始めたトナー業界のゆくえ」
30. 2019年 8月 「事業の健全性が問われるトナー業界の将来性」
31. 2020年 7月 「事務機の中核を占めるトナー事業の将来性」
32. 2021年 6月 「働き方の多様化で変化が加速するトナー市場の最新動向」

株式会社データ・サプライ刊行物案内／申込書

（刊行日・価格の変更があります）

住所：〒110-0005 東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F
 TEL：03(3831)9201、FAX：03(3831)9204
 E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp
 ホームページ：http://www.datasupply.jp/

- 以下の枠内にご記入いただき、下表のご希望の調査資料に希望部数、金額をご記入ください。最短で翌日（部数、地域による）に到着するように発送いたします。
- 申込はメール、FAX、郵送のいずれでも可能です。申込と同時に現物と請求書を発送させていただきます。尚、発刊日前の申込につきましては、申込時に半金の請求をし、発刊日に残金（現物とも）の請求をさせていただきます。

申し込み日 2022年 月 日

御社名

御住所 〒

御電話番号

御担当部署

御担当者

	日本語版		英語版		部数	金額
	価格 (消費税別)	刊行日	価格 (消費税別)	刊行日		
《 定期刊行物 》						
* 「月刊電子写真総合情報」 一電子写真に関する総合的なレポート（1986年～） 年間1,200～1,300頁	年会費：¥700,000 月会費：¥60,000	毎月 20日	\$7,000 \$600	毎月末	日 英	年 月号より ヶ月／年
i4inkjet [Directions] (年6回発行、年300頁～) ※インクジェット関連の特許技術レポート	—	—	¥550,000～	2021年 7/27～	英	
《 2022年刊行予定物 》						
* 2022年版[感光体マーケット総覧] 『基幹部品としての重要度を堅持する感光体市場の展望』	¥500,000	2/25	\$5,200	4/20	日 英	
* 2022年版[ローラー系部品マーケット総覧] 『共存共栄関係の構築を目指す部品業界の総合分析』	¥400,000	4/25	\$5,000	注文対応	日 英	
* 2022年版[トナーマーケット総覧] 『ハイブリッドワーク時代に於けるトナー市場の総合分析』	¥600,000	6/24 予定	\$6,000	8/下予定	日 英	
* 2022年版[インクジェット印刷マーケット総覧]	¥500,000	10/下予定	\$5,000	12/中予定	日 英	
* 2022年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート) 総合分析編・PPC市場編／プリンタ・プロダクションプリンタ市場編	¥600,000 各¥350,000	12/下予定	— —	—		
《 2021年刊行物 》						
* 2021年版[感光体マーケット総覧] (286頁) 『戦略転換が求められる感光体業界の試練』	¥500,000	2/25	\$5,200	4/26	日 英	
新レポート * 2021年版『出力機器関連機材ハンドブック』(282頁)	¥200,000	3/24	—	—		
* 2021年版[ローラー系部品マーケット総覧] (630頁) 『コストと品質が命綱となったローラー系部品業界の未来』	¥400,000	4/22	—	—		
* 2021年版[トナーマーケット総覧] (572頁) 『働き方の多様化で変化が加速するトナー市場の最新動向』	¥600,000	6/25	\$6,000	8/24	日 英	
* 2021年版[インクジェット印刷マーケット総覧] (377頁) 『新たなイノベーション創出を目指す 産業用インクジェット業界の最新動向』	¥500,000	10/26	\$5,000	12/10	日 英	
* 2021年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート) (640頁) 『業界変革期を迎えた複合機・プリンタ市場の将来性分析』 総合分析編・PPC市場編／プリンタ・プロダクションプリンタ市場編	¥600,000 各¥350,000	12/22	— —	—		
《 その他の刊行物 》						
* 2014年版[企業便覧シリーズ] (128頁) 『中国の機能性部品ローカル企業100社便覧』	¥150,000	2014年 9/29	\$1,500	2014年 10/31	日 英	
* 2013年版[オフィスユーザー調査] 分析編(810頁)、写真データ(535頁) 『インドにおける500社の複写機・LBP等の写真付ユーザー実態調査』	¥800,000	2013年 9/25	—	—		